

## 令和5年度第1回岡崎市国際化推進委員会議事録

- 1 日時  
令和5年7月20日(木) 午後2時～午後3時30分
- 2 場所  
市役所東庁舎601会議室
- 3 出席委員(敬称略)  
委員長 川崎 直子  
副委員長 伊東 浄江  
委員 三浦 知美、井上 登永、中西 真希、長尾 晴香、河口 苗子
- 4 欠席委員  
なし
- 5 傍聴人  
0名
- 6 事務局  
社会文化部長 中村 耕  
多様性社会推進課 課長 福澤 純子、副課長 石川 千乃、係長 竹谷 昌祐  
主査 太田 義男、主事 伊東 拓弥
- 7 議題  
多文化共生に向けた本市の取組みについて
- 8 議事要旨  
司会の多様性社会推進課長が開会を宣言。社会文化部長の挨拶に続き、岡崎市附属機関等の会議の公開に関する要領に従い本会議の公開を説明。本委員会設置要綱第4条第2項の規定に基づき本会議が有効に成立している旨を報告。その後、議長を務める川崎委員長により議題の審議が進められた。

議題 1 多文化共生に向けた本市の取組みについて

事務局 : 多文化共生に向けた本市の取組みについて説明。

委員長 : 委員の皆様から御意見・御質問はありますか。

E 委員 : 基本目標 の指標、災害時外国人支援ボランティア養成講座の回数が減っていますが、何か理由はありますか。

事務局 : 市全体の防災体制の見直しが始まり、社会福祉協議会などとの関係も含めて新体制が固まるまで少し時間を置くことになり、3回目は見送りとなりました。

E 委員 : 今回の大雨の被害に関しても、外国人に対する罹災証明などの情報提供が十分でないと思いますので、今後検討してもらいたいと思います。

委員長 : ことばの教室でフランス語の参加者が多いですが、何か理由が思い当たりますか。また、多文化共生の観点からは、フランス語は、あまり必要性を感じませんが、何か理由はありますか。

事務局 : 一度勉強してみたい、と思う方が多いと思われま。ことばの教室は、基本的には、多様性社会推進課の外国人スタッフで在住外国人の国籍の多い順にことばを選んでいきます。しかしながら、この「ことばの教室」自体に興味を持ってもらうために、アンケート結果を参加者にして、イタリア語、フランス語、英語など、それ以外のことばも選んでいます。

委員長 : フランス語の講師はどんな人ですか。

事務局 : 岡崎市国際交流協会主催の会話講座でフランス語講師をしてもらっている岡崎市在住の方です。

A 委員 : ことばの教室で、ことばだけでなく文化や習慣なども教えていますか。

事務局 : ことばと文化紹介をお願いしていますが、時間配分などは、基本的には、各講師に任せています。講師によっては、国民性や文化、習慣などを話すこともあります。

委員長 : 「国際化」は分かるけれど「多文化共生」は分からない、という人が多いと思います。食事の話から文化の違いを理解するようなストーリーを持った内容で、「多文化共生」が何か、が自然に分かるような講座にしてはどうでしょうか。

A 委員 : 岡崎市にはコミュニティ通訳員という良い制度があります。通訳員や総代以外の関係者や市役所職員も含めて、様々なテーマに対して生活の中で話し合うようにしたらどうでしょうか。例えば、町内規約などをやさしい日本語や多言語化しようとか、外国人への意識づけはどうしたら良いのか、などです。それを、岡崎市の多文化共生の進むべき方向を模索する機会にしたら良いと思います。

事務局 : コロナでいろいろな事業が出来ませんでした。少しずつできるようにな

ってきました。先日も城南小学校の防災訓練に出向き、キーパーソンになり  
そうな方に声を掛けてきました。今後は、しっかりと地元に入り込んでいき、  
日本人市民と外国人市民のつながりが強まるような仕掛けをしていきたい  
と思っています。

A 委員 : 外国人が引っ越して来て、騒音を出しているようなときは、やはり最低限  
のルールだけは守るように話し合い、互いに理解し合うことが必要です。

委員長 : 町内会費の支払いについての翻訳などでも、機械的に翻訳するのでは、不  
十分です。どうして町内会費を支払わなければならないのか、を説明する  
必要があります。制度を理解して初めて支払うことができると思います。

E 委員 : コミュニティ通訳員の会議は行っていますか。

事務局 : 年2回程度は、行ってきましたが、コロナでしばらくできませんでした。  
最近、久し振りに対面で開催できました。その際に以前コミュニティ通訳  
員をしていて、今回総代として出席した方と話ができました。やはり、対  
面で話し、知り合いになることが大事だと感じました。

C 委員 : 岡崎市は、永住者・定住者の割合が多いと思いますが、国民健康保険や年  
金に関してどんな相談実績がありますか。

事務局 : 具体的には、分かりません。相談内容は、国の指示に従った区分で分けて  
いますが、相談件数だけで、内容までは、記録していません。

A 委員 : 在留許可で家族滞在はどのくらいいますか？

事務局 : ブラジル4人、フィリピン11人、ベトナム273人、中国106人、韓国8  
人、ネパール117人、インドネシア2人、スリランカ39人です。

A 委員 : 家族滞在中に在留している子どもたちで就労したいと思っている子は、高校  
卒業が条件の一つであることをしっかり周知しなければならないと思い  
ます。

E 委員 : キッズ日本語教室でも、最近スリランカ、インドネシアなどから多くの子  
どもたちが勉強に来ています。最近かなり増えました。彼らは家族滞在な  
のですが、「将来的に日本で就労するには、高校卒業が必要だ」というこ  
とをどのように周知していくか。自分たちだけでは、支援しきれないので、  
心配であるし、大きな問題になっていくと思います。

委員長 : 日本語ボランティア養成講座で参加した15人は、今何をしていますか？

事務局 : 講座終了後に、LICC日本語教室や、りぶら日本語サロンを紹介していま  
す。実際何人ボランティアとして活躍しているかは、把握していません。  
ぴかぴかサポーター養成講座は、特に最終目的がはっきりしているので、  
講座修了者には、ぴかぴかが始まる前にはしっかり参加依頼をしています。

B 委員 : ブラジル人の方が総代をやっているという話がありました。そういう方を  
支援する受け入れ態勢や関係者の方たちで話し合う機会が必要だと思い  
ます。

F 委員 : 自分の日本語学校の生徒にも家族滞在の問題は最近目立っています。今ま

では、20歳までに現地の高校を卒業して、日本に行こうかどうしようか1年くらい迷っていても大丈夫でした。現在は、17歳までに日本に入国しなければならなくなったので、現地で高校を卒業する前に入国して、日本で高校を卒業するにはどうしたらいいのか、困っています。これらの情報が不足していると感じます。さらに、受入れ側や家族、家族が就労している企業が気を付けてあげる必要があると思います。

ところで、基本目標の指標「国際理解講座の実施回数」で目標値が40回で今回25回ですが、まだ、何か新しい企画があるのですか？

事務局：特に新しい企画があるわけではありません。計画策定時に36回だったため、1割程度増やして40回としたものです。

C委員：40回を大きく超えてもいいと思います。言葉の教室で種類も多いし、基本的な言葉の内容だけでなく、カルチャーなど深掘した別の講座も企画して、50回位にしても良いと思います。

委員長：年齢別のグラフで、20～40代の働き盛りが多いですが、100歳以上の人もいるでしょうから、高齢者支援が重要になるかな、と感じました。

事務局：韓国の方が、90～99歳で17名います。外国人高齢者に対する福祉が今後、課題になっていくと思います。

委員長：本日の会議では、言葉の教室で、あいさつだけでなく、もっと多文化共生を中心にした講座づくりができたらしい、という意見が出ました。人気の出そうな講座を開設し、他の講座にも目を向けてもらうなど、効果的な考え方だと思います。コミュニティ通訳員制度、在留資格別の人口、そしてベトナム人の家族滞在の多さなどを認識したので、今後の支援に役立てていきたいと思います。

コロナが落ち着き始めて、岡崎市も様々なイベントが再開するようになれば、目標値も変わってくるかもしれません。委員の皆様、他に何かありますか。

C委員：秋田県の大雨被害がありました。行政関係がどのように外国人市民に対して支援をしているのかを、今後情報収集して、岡崎市にどのように反映できるかを検証すると良いと思います。

A委員：外国人に、災害が起こりそうだ、ということを伝えることは難しいですね。さらに自分たちがいつ避難すべきなのか、と判断すること、は日本人でも難しいです。これらを、どのように伝えるかが課題だと思います。

委員長：災害時通訳ボランティアの活用ができますか。

事務局：今は、見直し中ですが、災害時通訳ボランティアの活用を考えていきたいと思っています。

(災害時通訳ボランティア養成講座の概要説明)

講座で、災害多言語支援センターとのやり取りの模擬訓練をやっていますが、実際に機能するのは不安です。

- D 委員 : 愛知県も震度5強以上の地震が起きたときに災害多言語支援センターを開  
設して、言語支援をする予定です。実際に災害が発災して、機能するかは、  
やはり心配です。県内市町村も、やはり同様に心配しています。今年は、  
愛知県として県内市町村が使える外国人向けマニュアルやポケットカー  
ドの作成を検討する予定です。センター立ち上げ後のホームページも準備  
しておく予定です。市町村と一緒にやるという点では、県内の市と避難所  
の訓練と一緒にやる予定ですが、何か新しい発見があると思います。
- 委員長 : 今、避難所の話が出ました。自分は蟹江町で、そこで外国人家庭の調査が  
あり、イスラム圏の方が意外に多いことが分かりました。彼らは避難所  
では、同じように過ごすことが難しいと思ういます。男女別にしなければい  
けない、などいろいろな制限がありますが、全ての避難所で対応できませ  
ん。3万7千人の小さな町でも、このような問題があるのですから、愛知  
県全体にしたら大きな問題だと思えます。例えばインドネシアの同じイス  
ラムでもいろいろなタイプがあり、複雑です。このような現状を私たちも  
知ることが多文化共生社会を作り上げることになると思います。
- 事務局 : 岡崎市でもインドネシアの方が333人います。今後の課題だと思えます。
- 委員長 : ありがとうございました。それでは、時間にもなりましたので、事務局へ  
お返しします。
- 事務局 : 委員の皆様ありがとうございました。これをもちまして令和5年度第1回  
多文化共生推進委員会を閉会いたします。